

教科(科目)	地理歴史(歴史総合)	単位数	2単位	学年(コース)	1年次
使用教科書	実教出版『歴史総合』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を育みます ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDCAサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 近現代の歴史に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけるようにする。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象の意味や意義、特色などを、時代や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて想像したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを求める。

3 指導の重点

- (1) 近現代の歴史について、世界と日本を相互的な視野から捉えて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけさせる。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象の意味や意義、特色などを、相互の関連や現在とのつながりなどに着目しながら多面的・多角的に考察し、また課題を把握、解決を視野に入れて想像する力を育て、またそれらをもとに説明し、議論する力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養い、また、自国や他地域の歴史、文化を客観的にとらえ尊重することの大切さを理解する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時代や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて想像したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論できる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	上記の観点を踏まえ、 - 定期考査の分析 - 作業活動での表現の観察 - レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 などから、評価します。	上記の観点を踏まえ、 - 定期考査の分析 - 授業中の討論・発表への参加、取組の様子を観察し評価する。 - レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 - 学習活動の振り返りシートの記述 などから、評価します。	上記の観点を踏まえ、 - 授業中の討論・発表への参加、取組の様子を観察 - レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 - 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

6 学習計画

学期	学習項目	時数	学習内容	評価の観点	評価方法
前期	歴史の扉	2	高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につける。	c	出席
	第1編 近代化と私たち				
	第1章 近代化への問い	1		c	学習への積極的な参加の様子
	①17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出	1	17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通、江戸幕府の4つの口や周辺地域との貿易などを基に、18世紀の日本から見た東アジアの政治・経済と社会を理解する。		
	1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動	1	17世紀から18世紀、19世紀にかけて日本の4つの口を通しての周辺地域との関係に着目し、主題を設定し、周辺地域の動向を比較し、相互に関連付けたりして、18世紀前後の日本の経済活動の特徴や、清などアジア諸国との関係を多面的・多角的に考察し、表現する。		
	2. 江戸時代の生産・流通と諸改革	1			
	②近世の琉球と蝦夷地	1			
	3. 幕政の改革と東アジア世界	1			
	アクティブ①鎖国は日本だけのもの？	1			
	第2章 ③ヨーロッパの主権国家体制の成立	1		b・c	(行動確認)
	4. イギリス産業革命とアメリカ独立戦争	1			
	5. フランス革命とウィーン体制	1	18世紀前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国の産業と流通、アヘン戦争やベリー来航などアジアと欧米諸国の関係などを基に、当時の世界の政治、社会を理解する。		
	資料の読み解き①ナポレオンはどう動かされたのか	1			
	6. アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立	1	18世紀前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国の政治、その影響に着目して、主題を設定し、ヨーロッパ諸国とその他の地域の動向を比較し、アジアとの関係を相互に関連付け、当時の世界全体の経済活動の特徴、ヨーロッパ各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係、江戸幕府崩壊の関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	b・c	発表の様子
	④世界市場の形成	1			
	7. オスマン帝国の衰退とロシア	1			
	⑤イスラム世界の拡大	1			
	8. アヘン戦争の衝撃と日本の開国	1			
	9. 江戸幕府の滅亡	1			
	アクティブ②19世紀の日本の外交交渉	1			
	前期中間考査	1			
	第3章 10. イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツ統一	1	19世紀後半のヨーロッパの動向と日本の明治政府の政策、欧米諸国との外交関係を基に、当時のヨーロッパと日本との経済、社会の関係をみる。	a・b	発言の様子
	11. 明治政府の諸改革 ⑥文明開化	1	19世紀後半の欧米諸国の動向が日本に与えた影響に着目し、主題を設定し、日本とその他の地域の動向を比較し、相互に関連付け、当時の日本の経済活動の特徴、日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	c	(行動・内容確認)
	12. 日本のアジア外交と国境問題	1			
	13. 自由民権運動と大日本帝国憲法	1			
	アクティブ③北緯35度線と日本の発展と近代化の動向を目的としたもの	1	19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義の動き、日本と東アジアの関係、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の進出などをもとに、当時のアジアの政治と社会を理解する。		
	第4章 ⑦近代化する日本をおとすれた外国人	1	19世紀から20世紀初頭にかけてのヨーロッパアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目し、主題を設定し、アジア諸国とその他の地域の動向を比較し、相互に関連付け、当時のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	b・c	ワークシートやノートの作成・提出
	14. 帝国主義の時代へ	1			
	15. 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争	1			
	16. 日清戦争後の東アジア	1			
	17. 日露戦争と東アジアの変動	1			
	18. 日本の産業革命 ⑧産業革命の光と影	1			
	アクティブ④日清戦争・日露戦争とナショナリズム	1			
	近代化と現代的な諸課題	1			
後期	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち				
	国際秩序の変化や大衆化への問い	1	第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソビエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立をとおして、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。		
	第5章19. 第一次世界大戦	1	大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達をもとに、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。		
	20. ロシア革命とソ連の成立	1	第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本参戦の背景と影響に着目し、主題を設定し、日本と他国、地域の動向を比較し、関連付け、大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係、国際協調体制を多面的・多角的に考察し、表現する。第一次世界大戦前後の社会変化に着目し、主題を設定し、日本と他国、地域の動向を比較し、関連付け、第一次世界大戦後の社会変動と社会運動との関連を多面的・多角的に考察し、表現する。		
	21. 米騒動と大正デモクラシー	1			
	22. ヴェルサイユ体制とワシントン体制	1			
	前期期末考査	1			
	23. アジアの民族運動	1			
	アクティブ⑤民族資本の形成と影響	1			
	24. 第一次世界大戦後の欧米諸国	1			
	25. ひろがる社会運動と普選選挙の表現	1			
	⑨1920年代に花ひらいた大衆の文化	1			
	⑥移動する人々	1			
	第6章26. 世界恐慌と各国の対応	1	世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などから国際協調体制の動揺を理解する。第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の	b・c	課題、ノ
	27. ファシズムの時代	1			
	資料の読み解き②若者たちはどう動いたのか	1			

28. 満洲事変と軍部の対立 29. 日中戦争と戦時体制 アクティブ⑦戦争と文化 30. 第二次世界大戦の勃発 31. 第二次世界大戦の終結 ⑩沖縄と戦争 32. 国際連合の成立と冷戦 33. 日本占領と日本国憲法 ⑪日本国憲法の誕生 34. 朝鮮戦争と日本 アクティブ⑧満洲移民・引揚・戦後開拓 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などから、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目し、主題を設定し、日本と他国、地域の動向を比較し、相互に関連付け、各国の世界恐慌へ対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察、表現する。第二次世界大戦の推移と世界に与えた影響、大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響に着目し、主題を設定し、日本と他国、地域の動向を比較し、相互に関連付け、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察、表現する。		ートなど 積極的な 作業・提出 (記述・内容点検) (行動確認)
後期中間考査	1			
第3編 グローバル化と私たち				
グローバル化への問い 第7章35. 植民地の独立 ⑫核実験と核競争 36. 米ソ両軍営の動揺 ⑬高度経済成長 37. 日本の国際社会復帰と高度経済成長 アクティブ⑨沖縄からみたベトナム戦争	1 1 1 1 1 1	脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治動向、軍備拡張や核兵器の管理などから、国際政治の変容を理解する。西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長から、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会状況を理解する。 地域紛争の背景、影響、また冷戦が各国の政治に及ぼした影響に着目して、主題を設定し、日本と他国、地域の動向を比較し、相互に関連付け、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因など、多面的・多角的に考察し、表現する。冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目し、主題を設定し、日本と他国、地域の動向を比較し、相互に関連付け、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。	a・b	定期考査 (記述・内容点検)
第8章38. 石油危機と世界経済 ⑭パレスティナ問題の変遷 39. 緊張緩和から冷戦の終息へ 40. 日本の経済大国化	1 1 1 1	石油危機、アジア諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解する。冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 アジア諸地域の経済発展の背景、経済自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響に着目し、主題を設定し、日本と他国、地域の動向を比較し、相互に関連付け、市場経済のグローバル化の特徴、日本の役割を多面的・多角的に考察し、表現する。冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響に着目して、主題を設定し、日本と他国、地域の動向を比較し、相互に関連付け、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割を多面的・多角的に考察し、表現する。		
アクティブ⑩多国籍企業について考える ー私たちの身近にある「グローバル」ー	1			
第9章 41. 地域紛争と対立 42. 国際秩序の変容 ⑮グローバル化のなかの日本	1 1 1	歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。 グローバル化の進む現代世界で起きている歴史的事象の背景や原因、結果や影響に着目し、日本と他国、地域の動向を比較し相互に関連付け、現代的な諸課題を展望し、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。		
アクティブ⑪持続可能な社会をめざしてー私たちが考えるべきことは何かー	1			
現代的な諸課題の形成と展望 後期期末考査	1 1			

計70時間(50分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 授業内や家庭学習での課題の作業やワークプリント、ほかにもノートなどの提出があります。
- ・ 作業や単元の終わりに振り返りシートを記入し提出することがあります。
- ・ 長期休業中の課題を別途指示することがあります。

8 担当者からの一言

歴史総合は近現代史を中心に、世界と日本のつながりを学習していきます。現代の世界がどのようにして形成されてきたのかを、今までの世界と日本の歴史の中で起こった出来事に関連付けながら学び、現在も変化を続ける私たちの社会の様々な課題を考えていきましょう。

「歴史総合」は必修科目です。履修完了しないと卒業は認められず、また選択科目「日本史探究」、「世界史探究」は履修できません。

教科(科目)	地理歴史（地理総合）	単位数	2単位	学年(コース)	1年次
使用教科書	実教出版『地理総合』 帝国書院『標準高等地図』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を育みます ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDCAサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

多様な生育歴・学習歴をもつ生徒が多いことから、

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせることを目指します。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことを目指します。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自国や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	上記の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 作業活動での表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認	上記の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 授業中の取組の様子を観察し評価する。 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・ 学習活動の振り返りシートの記述	上記の観点を踏まえ、 ・ 授業中の取組の様子を観察 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析
	などから、評価します。	などから、評価します。	などから、評価します。

6 学習計画

	単元名	時間	学習活動	評価の観点	評価方法
前期	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 1. 球面と平面 2. 緯度と経度 3. 日常生活の中の地図 4. 国家の領域 5. 日本の位置と領域 6. 国家間の結び付き 7. モノ・人・情報のグローバル化 8. 世界の交通、物流と日本 9. 観光のグローバル化 第2編 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 グループ1 自然環境と生活文化 ■テーマ1 地形と生活文化 前期中間考査	2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 4 1	・現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ・日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 ・現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ・現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。	a、b b、c a、b a、b	出席 学習態度 発表 課題 プリント等の提出物 定期考査
	■テーマ2気候と生活文化 グループ2 産業の進展によって変化する生活文化 ■テーマ 急速な経済発展で揺れ動く人々の暮らし(東アジア) グループ3 宗教に基づいた生活文化 ■テーマ イスラームと結び付く生活文化(西アジア・北アフリカ)	4 5 5	・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。 ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。	b、c	
前期	グループ4 国家・民族・言語の結び付きと生活文化 ■テーマ 國家の統合と生活文化(ヨーロッパ) 前期期末考査	4 1		b、c	

後 期	■テーマ 移民国家の形成と生活文化 (北アメリカ) 第2章 地球的課題と国際協力 1. 人口問題の展開と対策 2. アンバランスな人口分布 3. 食料問題の要因と解決に向けた課題 4. 食料問題への取り組み 5. 都市・居住問題 6. エネルギー資源の開発と限界 7. 新たなエネルギー資源への取り組み 8. 地球環境問題: 地球温暖化 9. 様々な場所で発生する地球環境問題 10. 地球的課題の解決に向けた国際協力 後期中間考査	5 第2章 1 ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及 1 び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互 1 の関連性などについて大観し理解する。 1 ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及 1 び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を 1 目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。 1 ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及 2 び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社 1 会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面 2 的・多角的に考察し、表現する。 1	b、c a、b、 c
	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然災害と防災 1. 日本の自然環境 2. 地震・津波 3. 地震・津波への対策 4. 火山災害と対策 5. 風水害 6. 風水害への対策 7. 雪害・高温と対策 8. 防災・減災への取り組み 第2章 地域調査 1. 課題の発見と事前調査 2. 現地調査 3. 調査結果の整理 4. 調査結果の分析と考察 5. 発表と報告 後期期末考査	第1章 2 ・我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害 1 を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、 1 自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理 1 解させる。 1 ・様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の 1 地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付 1 けさせる。 3 ・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通 1 点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への 1 備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 1 第2章 1 ・生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法など 1 について理解させる。 1 ・生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の 1 成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決 1 に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。	a、b、 c a、b、 c

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 課題、ワークプリント、その他の提出物が適宜あります。
- ・ 考査終了時などノートを提出して点検を受けます。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。(レポートなど)

8 担当者からの一言

「地理総合」は、今回から新しくできた科目です。そして、必修科目なので必ず履修しないと卒業はできません。また、選択科目の「地理探求」も履修することができなくなります。

「地理」は地球上の複数の要素・事象を関連づけながら考えそして、空間をどうとらえるか、どう認識するかということが大切になります。そのために地図帳も必要になります。日本と世界の関係、出来事を結びつけて学びながら、変化し続ける私たちの社会の様々な課題を考えていきましょう。(担当：中村)

教科(科目)	地理歴史(日本史探究)	単位数	4単位	学年(コース)	2年次～
使用教科書	山川出版社『高校日本史』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を育みます ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDCAサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習目標

「歴史総合」の学習で獲得した技能や歴史の学び方を活用し、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。

3 指導の重点

- (1)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2)我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c

評価の観点	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握・解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 作業活動での表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 授業中の討論・発表への参加、取組の様子を観察し評価する。 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・ 学習活動の振り返りシートの記述などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の討論・発表への参加、取組の様子を観察 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

6 学習計画

学期	学習項目	時数	学習内容	評価の観点	評価方法
前期	歴史学習をはじめるにあたり	4	高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につける。	c	出席
	第Ⅰ部 原始・古代				
	第1章 日本文化のはじまり 文化の始まり 農耕の開始	3	人類が日本列島で生活を営み始めた時代から平安時代までを扱い、先史・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解する。	a・c	学習への積極的な参加の様子
	第2章 古墳とヤマト政権 古墳文化の展開	3			
	飛鳥の朝廷	3			
	第3章 律令国家の形成 律令国家への道	2		b・c	(行動確認)
	平城京の時代	2			
	律令国家の文化 律令国家の変容	4			
	第4章 貴族政治の展開 摂関政治	3			発表の様子
	国風文化	2	平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解する。特に、院政期から武家政権成立期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する。	a・b	(行動確認)
	第5章 院政と武士の進出 院政の始まり 院政と平氏政権	3 3			
	前期中間考査	1		c	
	第6章 武家政権の成立 鎌倉幕府の成立と展開 モンゴル襲来と幕府の衰退 鎌倉文化	3 3 3			発言の様子
	第7章 武家社会の成長 室町幕府の成立 下剋上の社会 室町文化	3 3 3		b・c	(行動・内容確認)
	戦国の動乱	3			
	第8章 近世の幕開け 天下人の登場 豊臣政権と桃山文化	2 2	安土桃山時代から江戸時代までを扱い、近世がどのような時代であったかを世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解する。		ワークシートやノートの作成・提出
	第9章 幕藩体制の成立と展開 江戸幕府の成立 江戸初期の外交と文化 幕政の安定	3 3 3		a・b	
	前期期末考査	1		c	(記述・内容点検)
	経済の発展 元禄文化	2 2			
	第10章 幕藩体制の動揺 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 江戸幕府の衰退 化政文化	3 3 1			
	第11章 近世から近代へ 開国とその影響 幕府の滅亡と新政府の発足	2 2	近世の幕末から現代までを扱い、「歴史総合」の学習をふまえ、世界の情勢の変化とそこにおける日本の相互の関係や、日本の近現代の歴史を、多面的・多角的に考察し理解する。また、それらをふまえて、現代の日本の諸課題について、多面的・多角的に考察して理解するとともに、歴史的経緯や根拠をふまえて考える。	b・c	(行動確認)
	第12章 近代国家の成立 明治維新 立憲国家の成立	4 2			
	第13章 近代国家の展開と国際関係				

大陸政策の展開	2		b・c	
第一次世界大戦と日本	3			
ワシントン体制	2			
第14章 近代の産業と生活				
近代産業の発展	3		a・b	定期考査
近代の文化	2			(記述・内
市民生活の変容と大衆文化	2		c	容点検)
後期中間考査	1			
第15章 恐慌と第二次世界大戦				
恐慌の時代	5		b・c	
軍部の台頭	5			
第二次世界大戦	5			
第16章 現代の世界と日本				
占領下の改革と主権の回復	6		a・b	
55年体制と高度経済成長	5		c	
後期期末考査				
現代の情勢	3			
現代日本の課題の探究	4		b・c	
地域社会や身のまわりから考えよう	4			

計140時間(50分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 授業内や家庭学習での課題の作業やワークプリント、ほかにノートなどの提出があります。
- ・ 作業や単元の終わりに振り返りシートを記入し提出することがあります。
- ・ 長期休業中の課題を別途指示することがあります。

8 担当者からの一言

日本史探究は、現代の世界がどのようにして形成されてきたのかを、古代の日本文化の始まりから現代こいたるまでの、我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、次期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて考え、世界と日本のつながりを学習していきます。現在も変化を続ける私たちの社会の様々な課題を考えていきましょう。

教科(科目)	地理歴史(世界史探究)	単位数	4単位	学年	2 年次～
使用教科書	山川出版社『新世界史』				
副教材等	なし				

1 学習目標

「歴史総合」の学習で獲得した技能や歴史の学び方を活用し、

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 指導の重点

必修科目である「歴史総合」の学習によって身につけた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目である。
「世界史探究」については、「歴史総合」の学習を踏まえ、従前の「世界史A」、「世界史B」のねらいを発展的に継承しつつ、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という構成に沿って、世界の歴史の大きな枠組みと展開について理解を深め、地球世界の課題とその展望を探究する力を養うことをねらいとしている。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断 表現	主体的に学習に取り組む態度
○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解している。 ○諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断 表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 作業活動での表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 授業中の討論・発表への参加、取組の様子を観察し評価する。 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・ 学習活動の振り返りシートの記述 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の討論・発表への参加、取組の様子を観察 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとめごとに、各観点 「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとめごとの評価規準は授業で説明します。		

5 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	歴史学習をはじめるにあたり 第Ⅰ部世界史のまなざし 第1章 人類の歴史と私たち	諸事象の来歴や変化に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を多面的・多角的に考察する。 諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を多面的・多角的に考察する。 現生人類はどのようにして地球全体に拡散していったのかについて理解する	4	ワークシート 授業中の取り組み
4 5 6 7	第Ⅱ部 諸地域の歴史的 特質の形成 第2章 古代文明の特質 第3章 アジア諸地域の国家 と社会 前期中間考査 第4章 西アジアの帝国と古 代ギリシア 第5章 古代ローマ 第6章 ヨーロッパの形成とイ スラム教の誕生	王権と身分・階級、生活と生業、宗教、文化・思想などに関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、諸地域の歴史的的特質を読み解く観点について考察し、問いを表現する。	46	レポートやワーク シート、意見文、プ リント・ノートなど提 出物 定期考査
7 8 9 10 11	第Ⅲ章 諸地域の交流・再編 第7章 結びつくユーラシアの 諸地域 前期期末考査 第8章 キリスト教ヨーロッパ の成熟と交流 第9章 交易の進展と東アジ ア・東南アジア 第10章 アジア諸地域の再 編 第11章 ヨーロッパの成長と 世界の一体化 後期中間考査	広がる世界像、宗教や科学・技術および文化・思想の伝播、交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化などに関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。	44	レポートやワーク シート、意見文、プ リント・ノートなど提 出物 定期考査

12 1	第Ⅳ章 諸地域の結合・変容 第12章 国民国家と近代民主主義社会の形成 第13章 新国家の建設と世界市場の形成 第14章 アジア諸地域の動揺 第15章 帝国主義と世界 第16章 第一次世界大戦 第17章 第二次世界大戦と諸地域の変容 後期期末考査	人々の国際的な移動, 自由貿易の広がり, マスメディアの発達, 国際規範の変容, 科学・技術の発達, 文化・思想の展開などに関する諸資料を活用し, 課題を追究したり解決したりする活動を通して, 諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し, 問いを表現する。 18 世紀半ばから 19 世紀半ばにかけて, 欧米で産業革命や, 国民が政治の主体となる国家を建設しようとする動きが広がったのはなぜか, また, このような変革は, 現代までどのような影響を与えているのかについて理解する。 アジア諸国が自国の危機をどのように認識し, 欧米列強と対峙しながらいかに改革をすすめたのか, また, 欧米列強はなぜアジアやアフリカなどに進出しようとしたのかについて理解する。 第一次世界大戦は, なぜ「世界大戦」とよばれ, それまでの戦争とどのような点において異なるのか, そして, それぞれの地域において戦争の経験はどのような意味をもったのかなどについて理解する。 第二次世界大戦中のアジアの戦後構想と実際のアジアの戦後は, どのような点が連続し, あるいは異なっていたのかについて理解する。 冷戦の変容にともない, アメリカ合衆国の経済覇権はどのように動揺したのか, また, その後生じた経済のグローバル化は何を契機におこり, 世界経済をどのようにかえていったのかについて理解する。	35	レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物 定期考査
	第Ⅴ章 地球世界の課題 第18章 第三世界の形成と世界経済の動揺 第19章 今日の世界	アジア, アフリカ, ラテンアメリカの各国や社会が, 1970 年代の冷戦の変容に対してどのような選択をして対応したのかについて理解する。 21 世紀に入り, 地球上ではどのような問題が生じ, 人類社会はどのような課題に直面し, それを克服しようとしているのかについて, これまでの歴史をふまえ, その課題に取り組む当事者として考える。 グローバル化にともなって生じた課題にはどのようなものがあり, そうした課題はなぜ生みだされたのかについて理解する。 世界史探究の学習を基に, 持続可能な社会の実現を視野に入れ, 主題を設定し, 諸資料を活用し探究する活動を通して, 地球世界の課題を理解する。	11	レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物

計 140時間(55 分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 授業内や家庭学習での課題の作業やワークプリント、ほかにノートなどの提出があります。
- ・ 作業や単元の終わりに振り返りシートを記入し提出することがあります。
- ・ 長期休業中の課題を別途指示することがあります。

7 担当者からの一言

世界史探究は、現代の世界がどのようにして形成されてきたのかを、世界の文化の始まりから現代にいたるまでの、世界の諸地域の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、次期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて考え、世界と日本のつながりを学習していきます。現在も変化を続ける私たちの社会の様々な課題を考えていきましょう。

教科(科目)	地歴公民(地理探究)	単位数	4単位	学年	2学年～
使用教科書	帝国書院『新詳地理探究』 帝国書院『標準高等地図』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を育みます ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDCAサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習目標

地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域の地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につける。

地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連性を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。

地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて理解を深める。

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うことを目指す。

3 指導の重点

多様な成育歴・学習歴をもつ生徒が多いことから、

- (1) 地理に関わる諸事象に関して世界の生活文化の多様性や、防災、地域の地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけさせることを目指す。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養わせることを目指す。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自国や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて理解と自覚を深めることを目指す。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考 判断 表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考 判断 表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 作業活動での表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 授業中の取組の様子を観察し評価する。 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・ 学習活動の振り返りシートの記述 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の取組の様子を観察 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 序説 地球環境と人間	地形、気候、生態系などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。	4	レポートやワークシート、ノートなど提出物の内容の確認
	1節 地形 2節 気候 3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題 前期中間考査	地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、場所の特徴や自然および社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。	34	作業活動での表現の観察 レポートやワークシート・ノートなど提出物の内容の確認 定期考査の分析
	第2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 食糧問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 工業 6節 第3次産業	資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 資源、産業について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。	21	作業活動での表現の観察 レポートやワークシート・ノートなど提出物の内容の確認

	第3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏 前期期末考査	交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 交通・通信、観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	14	作業活動での表現の観察 レポートやワークシート・ノートなど提出物の内容の確認 定期考査の分析
	第4章 人口、村落、都市 1節 人口 2節 人口問題 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題	人口、都市・村落などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 人口、村落・都市について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	16	作業活動での表現の観察 レポートやワークシート・ノートなど提出物の内容の確認
	第5章 生活文化、民族・宗教 1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題 後期中間考査	生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 生活文化、民族・宗教について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	14	作業活動での表現の観察 レポートやワークシート・ノートなど提出物の内容の確認 定期考査の分析
	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分 第2章 現代世界の諸地域 序節 地域の考察方法 1節 中国 2節 韓国 3節 ASEAN 諸国 4節 インド 5節 西アジアと中央アジア	世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解する。 世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身につける。 世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題を設定し、地域のとらえ方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 現代世界の地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解する。いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法	26	作業活動での表現の観察 レポートやワークシート・ノートなど提出物の内容の確認

	6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ 7節 EU 諸国 8節 ロシア 9節 アメリカ合衆国 10節 ラテンアメリカ 11節 オーストラリアとニュージーランド 後期期末考查	などについて理解する。 現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。 現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。		作業活動での表現の観察 レポートやワークシート・ノートなど提出物の内容の確認 定期考查の分析
	第 3 部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 1 節 将来の国土の在り方 2 節 持続可能な日本の国土像の探究	現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。 現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。 持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとする。	11	作業活動での表現の観察 レポートやワークシート・ノートなど提出物の内容の確認

計 140時間(50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 課題、ワークプリント、その他の提出物が適宜あります。
- ・ 考查終了時などノートを提出して点検を受けます。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。(レポートなど)

8 担当者からの一言

「地理探究」は、今回から新しく開講された科目です。そして、「地理総合」を履修していないと選択することができません。「地理」は地球上の複数の要素・事象を関連づけながら考えそして、空間をどうとらえるか、どう認識するかということが大切になります。そのために地図帳も必要になります。日本と世界の関係、出来事を結びつけて学びながら、変化し続ける私たちの社会の様々な課題を考えていきましょう。(担当:中村)

教科(科目)	公民 (公共)	単位数	2単位	学年(コース)	2年次
使用教科書	第一学習社『高等学校 新公共』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を育みます ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDCAサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 現代社会の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

- (1) 現代社会の諸課題を考察、選択・判断するための概念や理論を理解し、倫理的主体となるために必要となる情報を適切に、効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
- (2) 現代社会の諸課題の解決のために、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間での基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さを理解する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断し、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論しようとする。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断し、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論しようとする。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・作業活動での表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の取組の様子を観察し評価する。 ・レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・学習活動の振り返りの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取組の様子を観察 ・レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・学習活動の振り返りの記述の分析 などから、評価します。

6 学習計画

学期	学習項目	時数	学習内容	評価の観点	評価方法
前期	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち ①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自律 ③多様性と共通性 ④伝統文化とのかかわり ⑤自立した主体をめざして	1 1 1 1 1	・自らの振り返りなどを通し、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であり、互いの立場を理解し高め合う社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れることなどを通し、自らの価値観を形成し他者を尊重することができる存在であることについて理解する。 ・自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとすることが、キャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことを理解する。 ・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 ・自立した主体として、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として公共的空間を作ることにについて多面的・多角的に考察し、表現する。 ・公共的な空間をつくるために、諸課題を主体的に解決しようとする。	a a a b b c	出席 学習への積極的な参加の様子 (行動・確認) 発表の様子 (行動・確認) 発言の様子 (行動・内容確認)
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 ①人間と社会のあり方についての見方・考え方	2	・選択・判断の手掛かりとして、個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正を重視する考え方を理解する。 ・諸課題の解決について自他が納得できる方法を見いだすため、人としての在り方生き方探求が重要であることを理解する。 ・諸資料から、よりよく生きる活動のため、情報収集、読み取りの技能を身に付けている。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し、自他が納得できる解決方法を見いだすため、思考実験などを用い考察し、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・公共的な空間における人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	a a a b b c	ワークシートやノートの作成・提出 (記述・内容点検) (行動・確認)
	第3章 公共的な空間における基本的原理 ①人間の尊厳と平等、個人の尊重 ②民主主義と法の支配 ③自由・権利と責任・義務 ④日本国憲法に生きる基本的原理	1 1 1 1	・意見や利害対立の調整を通し、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性確保を共に図る重要性を理解する。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など基本的原理を理解する。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。 ・公共的な空間における基本的原理について、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	a a b b c	課題、ノートなど積極的な作業・提出 (記述・内容点検) (行動・確認)
	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち				
	第1章 法的な主体となる私たち				
	主題1 法や規範の意義と役割 ①私たちの生活と法 ②法と基本的人権 ③自由に生きる権利と法・規範 ④平等に生きる権利と法・規範 ⑤安全で豊かに生きる権利と法・規範 ⑥法をよりよいものにするための権利	1 1 1 1 1 1	・法や規範の意義、役割に関わる社会の事柄や課題を理解する。 ・社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れて、解決に向けて協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 ・法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	a a b b c	
	前期中間考査	1		abc	
	主題2 契約と消費者の権利・責任 ①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任	1 1	・契約と消費者の権利・責任に関わる事柄や課題を理解する。 ・諸資料から必要な情報を適切、効果的に収集し、読み取りまとめる技能を身に付けている。 ・学んだ知識を活用し、幸福、正義、公正などに着目し、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・諸課題の解決に向け具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、解決に向けて協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 ・契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	a a b b c	
	主題3 司法参加の意義 ①裁判所と司法	1	・司法参加の意義に関わる事柄や課題を理解する。 ・諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技	a a	

後 期	②国民の司法参加	1	能を身に付けている。 ・政治分野の国会・内閣のしくみとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 ・司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	b	出席 学習への積極的な参加の様子 (行動加算) 発表の様子 (行動加算) 発言の様子 (行動・内容確認) ワークシートやノート の作成・提出 (記述・内容点検) (行動加算) 課題、ノートなど積極的な作業・提出 (記述・内容点検) (行動加算) 定期考査 (記述・内容点検)
	第2章 政治的な主体となる私たち				
	主題4 政治参加と公正な世論形成				
	①私たちと選挙	1	・政治参加と公正な世論形成に関わる事柄や課題を理解する。	a	
	②選挙の現状と課題	1	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	a	
	③世論の形成と政治参加	1	・幸福、正義、公正などに着目し、多面的・多角的に考察し、表現する。	b	
	④国会と立法	1	・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。	b	
	⑤内閣と行政	1	・政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	c	
	⑥地方自治と住民福祉	1			
	主題5 国際社会と国家主権				
	①国家と国際法	1	・国際社会と国家主権に関わる事柄や課題を理解する。	a	
	②国境と領土問題	1	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	a	
	③国際連合の役割と課題	1	・国際社会の特徴と課題について、幸福、正義、公正などに着目して考えている。	b	
			・解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。	b	
			・国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	c	
	主題6 日本の安全保障と防衛				
	①平和主義と安全保障	1	・日本の安全保障と防衛に関わる事柄や課題を理解する。	a	
	②日本の安全保障体制の変容	1	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	a	
	③核兵器の廃絶と国際平和	1	・憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目し、多面的・多角的に考察、表現する。	b	
			・解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。	b	
			・日本の安全保障と防衛について、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	c	
	前期期末考査	1		abc	
	主題7 国際社会の変化と日本の役割				
	①今日の国際社会	1	・国際社会の変化と日本の役割に関わる事柄や課題を理解する。	a	
	②人種・民族問題と地域紛争	1	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	a	
	③国際社会における日本の役割	1	・経済分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。	b	
			・解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。	b	
			・国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	c	
	第3章 経済的な主体となる私たち				
	主題8 雇用と労働問題				
	①私たちと経済	1	・雇用と労働問題に関わる事柄や課題を理解する。	a	
	②労働者と権利	1	・必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	a	
	③労働環境と課題	1	・法、人権とも関連させ、幸福、正義、公正などに着目し、多面的・多角的に考察、表現する。	b	
			・解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。	b	
			・雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとする。	c	
	主題9 社会の変化と職業観				
	①日本経済のこれまでとこれから	1	・社会の変化と職業観に関わる事柄や課題を理解する。	a	
	②技術革新の進展	1	・必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	a	
	③現代の企業	1	・歴史や情報など他教科で学んだ知識をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。	b	
	④中小企業の現状と役割	1	・解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。	b	
	⑤日本の農林水産業	1	・社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとする。	c	
	後期中間考査	1		abc	
	主題10 市場経済の機能と限界				
	①市場経済と経済運営	1	・市場経済の機能と限界に関わる事柄や課題を理解する。	a	
	②市場のしくみ	1	・必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	a	
	③経済発展と環境保全	1	・幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。	b	
	④国民所得と私たちの生活	1	・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。	b	
	⑤経済成長と国民の福祉	1	・市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	c	
	主題11 金融のはたらき				
	①金融の意義と役割	1	・金融のはたらきに関わる事柄や課題を理解する。	a	
	②金融のいま	1	・必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	a	
			・幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。	b	
			・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。	b	
			・金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	c	
	主題12 財政の役割と社会保障				
	①財政のしくみと租税	1	・財政の役割と社会保障に関わる事柄や課題を理解する。	a	
	②日本の財政の課題	1	・必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	a	
	③社会保障と国民福祉	1	・社会の課題を社会背景をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して考えている。	b	
	④これからの社会保障	1	・解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し論拠をもって表現する。	b	
			・財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	c	
	主題13 経済のグローバル化				
	①国際分業と貿易	1	・経済のグローバル化に関わる事柄や課題を理解する。	a	
			・必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	a	

②国際収支と国際経済体制	1	・幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 ・経済のグローバル化について、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	b
③外国為替相場の動き	1		b
④グローバル化する経済	1		c
⑤地域的経済統合	1		
⑥国際社会における貧困や格差	1		
⑦地球環境問題	1		
⑧資源・エネルギー問題	1		
⑨国際社会のこれから	1		
第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち			
①排出権取引を考える～地球環境問題	1	・これまで学んだ内容や課題を解決するための知識を理解する。 ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだす。 ・これまでの学習に関連し幸福、正義、公正などに着目し、多面的・多角的に考察、表現する。 ・課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述する。 ・現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	a
②ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題	1		b
③ゲノム編集を考える～生命倫理	1		b
④インターネットによる投票を考える～情報	1		b
⑤フェアトレードを考える～国際社会の課題	1		abc
後期期末考査	1		

計70時間（50分授業）

7 課題・提出物等

- ・ 課題、ワークプリント、その他の提出物が適宜あります。
- ・ 考査終了時などノートを提出して点検を受けます。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。（レポートなど）

8 担当者からの一言

「公共」は必修履修科目です。履修完了しないと卒業は認められず、また選択科目の「政治・経済」、「倫理」は履修できません。

「公共」は現代の諸課題の解決に向けて、必要な知識や考え方を学習していきます。自らの周囲を尊重しながら、協力し合う中で、諸課題の状況を理解し、考察し、選択・判断し、議論しながら、自らが積極的によりよい社会を目指すことの大切さを考え、学んでいきましょう。

教科(科目)	公民(政治・経済)	単位数	2単位	学年	3年次(普通科)
使用教科書	実教出版『最新政治・経済』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を育みます ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDCAサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習目標

人の共存する社会について基本的な見方・考え方を働かせる活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生き、平和で民主的な希望に輝く将来を担う社会の形成者として、精神的、社会的、経済的に自立し、豊かな情操をはぐくみ、資質・能力を次のとおり養うことを目標とする。

- (1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- (2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
- (3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

3 指導の重点

- ・現実社会の問題解決の手がかりとなる、民主政治の本質や現代政治の特質、日本国憲法の基本的性格、国会・内閣・裁判所などの政治のしくみ、資本主義経済、国際経済のしくみを理解し、社会の在り方についての様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけさせる。
- ・社会の形成者、主権者として選択・判断基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用し、課題を把握、説明し、さらに考察、議論し、公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
- ・人として、主権者として、現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、平和な社会、安定した国際社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。
- ・本校の特徴を活かし、安全・安心な空間、自己存在感の感受、学びの価値の実感、PDCAサイクル、教育的資源有効活用、自己決定する機会に取り組みながら指導をおこなう。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、社会の課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想し、その妥当性や効果、実現可能性などを考えながら、議論し公正に判断して、合意形成や社会参画しようとしている。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとするとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して主権者として社会の平和と繁栄を求め、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、積極的に参加しようとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・作業活動での表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の取組の様子を観察し評価する。 ・レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・学習活動の振り返りシートの記述 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取組の様子を観察 ・レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	時数	学習活動(指導内容)	評価観点	評価方法
前期	第1編 1章		・政治、国家、法のあり方について考える。	c	出席
	1 民主政治と法	1	・基本的人権の歴史的発展や法の支配について理解する。	c	学習への積極的な参加の様子 (行動確認)
	2 民主政治の基本原則	1	・民主政治のしくみと課題を理解したうえで、権力分立と立憲主義の重要性を理解する。		
	3 民主政治のしくみと課題	1	・資料の活用を利用し、各政治制度の特徴を理解する。		
	4 世界のおもな政治制度	1	・日本国憲法の成立過程を踏まえつつ、明治憲法との違いを理解する。		
	2章 1 日本国憲法の成立	1	・日本国憲法の基本原則を理解し、憲法の改正手続きについて考える。	b・c	発表の様子 (行動確認)
	2 日本国憲法の基本原則	1	・自由権の内容について理解する。		
	3 自由に生きる権利 (1)	1	・法の下での平等、現代社会の人権問題について理解する。		
	4 自由に生きる権利 (2)	1	・社会権の内容について理解する。	b・c	
	5 平等に生きる権利	1	・新しい人権の求められる社会の変化と権利の主張について理解する。		発言の様子 (行動・内容確認)
	6 社会権と参政権・請求権	1	・人権保障をめぐる課題と、公共の福祉について理解する。		
	7 新しい人権	1	・日本の安全保障政策の展開と、現在の安全保障政策の課題について理解する。		
	8 人権の広がり と公共の福祉	1			
	9 平和主義と自衛隊	1		a・b	ワークシートやノート の作成・提出 (記述・内容点検) (行動確認)
	10 日米安全保障体制の変化	1		c	
	11 21世紀の平和主義	1			
	3章 1 政治機構と国会	1	・国会の役割や権限、内閣の権限と議院内閣制、司法制度と司法参加の意義について、日本の三権分立のしくみ、特徴をふまえて理解する。		
	2 内閣と行政機能の拡大	1	・地方自治の本旨や住民の権利について理解し、地方が抱える課題について考察し、表現させる。	b・c	課題、ノートなど積極的な作
	3 公正な裁判の保障	1	・政党政治の特徴と現在抱える課題について理解する。		
	4 地方自治と住民福祉	2	・選挙制度の特徴と課題、主権者としての政治参加について、マス・メディアや市民運動について多面的、多角的に考察し証言する。		
	5 政党政治	1			
	6 選挙制度	1			
	7 世論と政治参加	1			
	前期中間考査	1			
	第2編 1章		・経済的な効率性と公平性の対立関係について考える。		
	1 経済活動の意義	1	・資本主義と社会主義の変容、市場経済の展望と課題への対応を考える。		
	2 経済社会の変容	1	・経済主体と経済循環を理解し、需給曲線を通して市場メカニズムを考え、さらに市場の効率性と公平性の調整について考察する。		
	3 経済主体と市場の働き	1	・企業の役割と社会的責任について考える。		
	4 企業の役割	1	・主な経済指標とその見方、特徴について理解する。	b・c	
	5 国民所得	1	・経済成長や景気変動について要因、影響を考え、フローとストックの概念や、「豊かな生活」とは何か多面的、多角的に考察する。		
	6 経済成長と国民の福祉	1			

	7 金融の役割 8 日本銀行の役割 9 財政の役割と租税 10 日本の財政の課題 2 章 1 日本経済の成長と課題 2 中小企業と農業 3 消費者問題 4 公害防止と環境保全 前期期末考査	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	・金融を通じた経済活動、中央銀行の役割について理解する。 ・納税者としての立場から租税のしくみを確認し、財政の持つ重要な役割について考える。 ・財政の現状、財政の硬直化と構造改革について理解し、これからの財政のあり方を考える。 ・バブル経済と崩壊、リーマンショックなど歴史的な事象が経済に与えた影響を、統計資料から考える。 ・人口減少社会と格差・貧困が経済に与える影響や経済の二重構造のなかでの中小企業の姿、経済成長と環境保護問題など、現代経済が抱える問題について考える。 ・農業の自由化を背景として改革が進められている農政について考える。 ・社会、経済の変化に伴う消費行動の変化と、現在の消費者行政の課題を知り、法制度の整備や、契約の権利と責任について考える。	a・b	業・提出 (記述・内容点検) (行動確認) 定期考査 (記述・内容点検)
後期	5 労働問題と労働者の権利 6 こんにちの労働問題 7 社会保障の役割と課題 第3編 現代日本における諸課題の探究	1 1 2 4	・労働者の権利保護の流れと労働関係法、労働者保護の現状を考える。 ・日本的雇用形態の変化や、ワーク・ライフ・バランスについて考える。 ・社会保障制度の発展の経緯と社会保障制度のしくみと課題について諸外国の制度との比較も含めて考える。 ・少子高齢化や日本の財政の現状も踏まえながら、今後の課題を理解する ・少子高齢社会や地域社会の存続、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化、財政健全化問題、食料の安定供給と農業活性化、防災と安全・安心な社会の実現などの解決に向けて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述させる。		
	第2部 現代の国際政治・国際経済 第1編 1章 1 国際社会と国際法 2 国際社会の変化 3 国際連合と国際協力 4 こんにちの国際政治 5 人種・民族問題 6 軍拡競争から軍縮へ 7 日本の外交と国際社会での役割 後期中間考査	1 1 1 1 1 1 1	・国際社会を構成する要素、国際法、領土問題について国内政治や国内法との比較で考える。 ・世界大戦とその後の社会変化が国際法と国際政治に与えた影響とについて考える。 ・国際連合の組織、活動と、変化する国際情勢の中での現在抱える課題を考える。 ・冷戦の終結後の紛争やテロの背景を、国際社会の力学の変化から考え、さらに大国の動向や、国家間対立の枠組みに収まらない複雑な対立構造についても確認する。 ・人種・民族問題の解決のための国際社会での取り組みを、ナショナリズムや自民族中心主義の主張とあわせて考える。 ・冷戦による対立構造と安全保障のジレンマを確認し、核兵器禁止条約の採択と核廃絶に向けた動きを参考に考える。 ・戦後日本の外交の展開と、日本の国際社会での役割について、人間の安全保障の観点も参考に考える。		
	第2編 1章 1 貿易と国際収支 2 外国為替市場のしくみ 2 章 1 第二次世界大戦後の国際経済 2 国際経済の動向 3 新興国の台頭 4 経済のグローバル化と ICT でかわる世界経済	1 1 1 2 1 1	・自由貿易や保護貿易の考え方が主張された背景を比較生産費説から考える。 ・国際収支の見方と、国際貿易の動向を確認する。 ・外国為替のしくみと、為替レートの変動が経済にもたらす影響を具体的な例を参考に、外国為替市場における需要と供給の関係を確認する。 ・IMF体制の変遷と国際社会の変化に伴うWTOの抱えた課題について、ドーハラウンドにおける先進国と途上国の対立や、二国間交渉への傾倒などから考える。 ・各地域の貿易協定と地域的経済統合について各地域の状況を確認する。 ・多角主義の原則から二国間協定への流れ、さらにメガFTAの挑戦といった過程を確認する。 ・急成長をとげる新興国の現状と課題及び、国際経済への影響について理解する。 ・富の偏在、拡散する政治・経済対立、地球環境問題、経済連携の脆弱化、金融危機共有など、グローバル化が経済や社会にもたらした影響と課題について考える。		

5 発展途上国の課題と展望	1	・資源ナショナリズムや新国際経済秩序樹立に関する宣言などを通して、		
6 地球環境問題、資源エネルギー問題	1	南北問題、南南問題を考える。		
7 経済協力と日本の役割	1	・途上国間の経済格差について理解する。		
第3編		・エネルギー資源の歴史と化石燃料が大量消費される背景を理解する。		
国際社会における諸課題の探究	4	・地球温暖化問題をめぐる現状と課題について理解する。		
後期期末考査	1	・貧困や飢餓、環境問題等に対して、国際的な対応の現状を理解し、日本のODAの現状と課題について確認する。		
		・グローバル化に伴う生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなど、解決に向けて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述させる。		
	70			

計 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 授業内や家庭学習での課題の作業やワークプリント、ほかにノートなどの提出があります。
- ・ 作業や単元の終わりに振り返りシートを記入し提出することがあります。
- ・ 長期休業中の課題を別途指示することがあります。

8 担当者からの一言

現代日本の政治や経済のしくみ、世界の政治や経済について学びます。政治的な見方や考え方を身につけて、現在の世の中の様々な問題を自分ごととして考え、積極的によい社会をつくる人になりましょう。教科書内容も重要ですが、高校卒業後の社会生活に不可欠なことがらを多く学ぶため、政治、経済ニュースなどを織り交ぜた授業展開となります。報道番組や新聞記事に自ら興味関心をもって、授業を受ける必要があります。

教科(科目)	公民(倫理)	単位数	2単位	学年	3年次(普通科)
使用教科書	実教出版 『詳述倫理』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を育みます ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDCAサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習目標

人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究し解決に向けて構想する活動を通し、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な希望に輝く将来を担う社会の形成者として、精神的、社会的、経済的に自立し、豊かな情操をはぐくみ、資質・能力を次のとおり養うことを目標とする。

- (1) 先人の幾多の思想、技術、文化などの知的蓄積を通し、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる基本的な概念や理論を理解し、人間としての在り方生き方について調べ、まとめる技能を身に付ける。
- (2) 自立した人間として他者と共によりよく生きる自らの生き方を深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するため、倫理的な概念や理論などを用い、論理的に思考、思索し、説明し対話する力を養う。
- (3) 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について、主体的に追究し、他者と共によりよく生きる自己を形成する態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い思索を通して現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

3 指導の重点

- ・人類の歴史の中で育まれた文化の基礎となる幾多の思想、知的蓄積を通し、今を生きる私たちの課題を捉え、より深く思索するため、先哲、思想家の基本的な概念や理論を理解し、共に社会で生きる私たちの人間としての在り方生き方を、身近な事例を参考にしながら、調べ、簡単にまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・社会で自立した人間として、他者と共に、よりよく生きる自らの生き方を深く考え、思索する力や、現代の倫理的諸課題を見出し、主体的、論理的に思考、思索し、説明し、周囲と対話する力を養う。
- ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究し、将来に向かって他者と共によりよく、力強く生きる自己をつくりあげる態度を養い、多面的・多角的に考察し、思索を深め、現代、未来に生きる人間としての在り方、生き方についての自覚を深める。
- ・本校の特徴を活かし、安全・安心な空間、自己存在感の感受、学びの価値の実感、PDCAサイクル、教育的資源の有効活用、自己決定する機会に取り組みながら指導をおこなう。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会の各時代各地域の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けている。	自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために、倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明、対話できる。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究し、他者と共によりよく生きる自己を形成することができる。また、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考えている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 作業活動での表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 授業中の取組の様子を観察し評価する。 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・ 学習活動の振り返りシートの記述 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の取組の様子を観察 ・ レポートやワークシート、意見文、プリント・ノートなど提出物の内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	時数	教材名 学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
前期	第1章 自己形成と自己の生き方		・ 青年期の特徴を理解し、心身の変化をとまなないながら成人としての自己形成をおこなう青年期の重要な意義を理解する。	c	出席
	第1節 青年期の課題と自己形成	1	・ 葛藤や欲求不満などの困難などの青年期の課題、青年期の発達課題を、パーソナリティの理論を参考に理解し、その対応について自己を見つめ考える。	c	学習への積極的な参加の様子
	1. 青年期とは何か	1			(行動確認)
	2. 自己形成の課題	1	・ ウェルビーイングや生きがい、生きる意味について、周囲の様々な考えを参考に、自らの考えを深め、考察する。	b・c	
	3. よりよい生き方を求めて	1	・ 個性化と社会化について理解する。		
	第2章 人間としてのあり方生き方	1	・ 人間のあり方、生き方やさまざまな特質について考える。	b・c	発表の様子
	第1節 ギリシア思想	1	・ ギリシア人の世界のとらえ方や考え方の変化から生まれたギリシア思想、哲学的思考のはじめについて考える。	b・c	(行動確認)
	1. ギリシア思想の誕生—自然哲学		・ ソフィストとソクラテスの考えの違いを理解する。		
	2. ソフィストたちとソクラテス		・ ソクラテスの“よりよい生き方”を考察する。		
	3. プラトン	1	・ プラトンの理想主義について理解する。	a・b	発言の様子
	4. アリストテレス	1	・ 現実主義のアリストテレスの考える善や幸福、彼の思想の以後への影響を、プラトンの考え方との違いをまじえ理解する。	c	(行動・内容確認)
	5. ギリシア思想の展開	1	・ ヘレニズムの時代背景、エピクロス派とストア派の思想を理解する。		
	第2節 キリスト教	1	・ ユダヤ教の成立やその教えを理解する。		
	1. 古代ユダヤ教	1	・ イエスのユダヤ教形式主義批判と、神の福音について理解し、原始キリスト教の展開とその後の拡大を、贖罪思想などを参考に理解する。		
	2. イエス	1			
	3. キリスト教の誕生と展開	1			
	第3節 イスラーム第4節 仏教	1	・ イスラームの成立やその教えの内容を理解し、現在のムスリムのおかれた状況と諸問題について考察する。	b・c	ワークシートやノートの作成・提出
	1. 仏教以前のインド思想	1	・ 現在のヒンドゥー教の源流ともなるバラモン教やウパニシャッド哲学を理解する。		(記述・内容点検)
	2. ブッダの教え	1	・ ブッダの教えをとおして、仏教の基本的な考え、理想の生き方を考察する。		(行動確認)
	3. 大乘仏教の成立とその教え	1	・ 大乘仏教の教えや実践を理解する。		
	第5節 中国思想	1	・ 諸子百家の時代、儒家の孔子、その他の思想家や社会のとらえ方を概観する。		
	1. 「道」の自覚—孔子	1	・ 代表的な孔子の言葉をとりあげ、その教えを理解する。		
	前期中間考査				
	2. 儒家思想の展開	1	・ 儒家思想の拡大と後世への思想的な影響を理解する。		
	3. 老荘思想	1	・ 老子、荘子の道家思想の背景、思想の内容について理解し、考察する。		
	第6節 宗教・芸術と人生	1	・ 宗教と芸術の、人間社会、人生でのどのような意味をもっているか、その意義を考える		

	第3章 社会・世界と人間としてのあり方生き方 第1節 人間の尊厳 1. ルネサンス 2. 宗教改革 3. モラリスト 第2節 科学・技術と人間 1. 近代の自然観 2. 新しい学問の方法—経験論と合理論 第3節 民主社会と自由の実現 1. 民主社会の形成—社会契約説 前期期末考查	1 1 1 1 2 1 1	・文学や芸術などの面から、ルネサンス期の社会の変化をとらえ、人文主義の考えを確認する。 ・宗教改革の動きやルター、カルヴァンの思想を理解する。 ・宗教的対立のなかで生まれたモラリスト、モンテーニュやパスカルの思想を理解する。 ・近代的な自然観の形成について、近代科学の発展のきっかけと関連して理解する。 ・ベーコンの帰納法、デカルトの演繹法が、現代の学問の方法となることを理解する。 ・ホッブズ、ロック、ルソーの社会契約説の考えを理解し、民主社会形成の思想的背景を確認する。	b・c a・b	課題、ノートなど積極的な作業・提出（記述・内容点検）（行動確認） 定期考查（記述・内容点検）
後期	2. 人格の尊厳—カント 3. 人倫—ヘーゲル 第4節 社会と個人 1. 個人と社会との調和—功利主義 2. 社会の進歩と変革 3. 真理と行為—プラグマティズム 第5節近代の人間の見直し 1. 主体性の再定義—実存主義	2 1 1 1 1 2	・経験論と豪理論の統合、道徳論を説いたカントの思想、ヘーゲルの精神と歴史の関係や弁証法を理解する。 ・資本主義経済の発展を背景にしたアダム＝スミスの思想、ベンサム、J.S. ミルの功利主義思想を理解する。 ・経済社会の発展のもたらした社会変化の中でとなえられた、実証主義や社会進化論、空想的社会主義の意味を考察し、変革をとなえたマルクスの思想を理解する。 ・プラグマティズム、実存主義の思想を理解する。		
	2. 近代的な「私」の問い直し—無意識の発見 3. 思考は言語にしばられる—言語論的転回 4. 社会関係のなかでの「私」の成立—構造主義 第6節 現代の暴力に抗して 1. 生命への畏敬と非暴力の思想 2. 暴力のあとで—理性、人間、他者の見直し 3. 暴力のなかで—公共性、正義、共通善の実現 後期中間考查	1 1 1 1 1 1 1	・無意識の構造を理解する。 ・思考が言語の枠組みのなかで行われていることを理解する。 ・構造主義の思想を理解する。 ・生命が軽んじられている状況を前に、人間の理性や責任とは何かを理解する。 ・近代社会の発展のなかで生まれた暴力のあとで、理性や人間、他者はどのようにとらえなおされたのだろうか。 ・フランクフルト学派が問題視しているところを理解する。 ・潜在的な暴力を廃するための社会を構想 ・ハーバーマス、ロールズやノージック、センの思想 ・共同体主義の思想を理解する。		
	第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1節 古代日本人の思想 1. 日本人の自然観と気質 2. 神との関わりと道徳観 第2節 日本の仏教思想 1. 仏教の受容 2. 仏教の日本的展開—鎌倉仏教 3. 仏教と日本文化	1 1 1 1 2 1	・日本人の気質や文化が自然や風土と関連して形成されたことを理解する。 ・日本人の道徳観の形成過程やその特質を理解する。 ・仏教の受容やそれが浸透した流れを理解する。 ・鎌倉時代の仏教が何をめざしてどのような考え方をもちか理解する。 ・日本の伝統的な文化や文芸が日本人の世界観や道徳観などと関わっていることを理解する。		
	第3節 近世日本の思想 1. 儒教の受容と朱子学 2. 日本陽明学 3. 日本的儒学の形成—古学 4. 国学の形成 5. 民衆の思想 6. 幕末の思想第	1 1 1 1 1 1	・朱子学を林羅山の考えから理解する。 ・陽明学を中江藤樹の考えから理解する。 ・日本独自の儒学思想として形成された古学の特徴や考え方を理解する。 ・国学者が理想とした、古代日本に見出した日本固有の道の考え方を理解する。 ・近世庶民社会にうまれた人生観、道徳観などを理解する。 ・幕末の西洋学術との接触は当時の社会にどのような影響を与えたのか考察する。		

第4節 西洋思想の受容と展開 1. 啓蒙思想と自由民権思想 2. キリスト教の受容 3. 国家主義の台頭と社会主義思想 4. 近代的自我の確立 5. 近代日本哲学の成立と超国家主義 6. 伝統の自覚と新たな課題	1 1 1 1 1 1	・啓蒙思想や自由民権運動の思想は当時の人々にどうとらえられたか、また海外文化の受容と、日本の伝統、文化の継承との兼ね合いについて考察する。 ・内村鑑三の思想を理解する。 ・近代の急激な社会変化に対してどのような道徳観や社会変革の考えがうまれたか理解する。 ・西洋文化が浸透し、急激に社会が変わるなかで、文学作品を通して個人のあり方生き方を追究する発信がなされたことを理解する。 ・日本でうまれた独自の思想を理解する。 ・小林秀雄や丸山眞男の思想を手がかりに、国際社会に生きる日本人としてどのような課題があるかについて理解する。		
第5章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理 第1節 生命の倫理 第2節 環境の倫理 第3節 科学技術の倫理 第6章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理 第1節 福祉の課題 第2節 文化と宗教の課題 第3節 平和の課題 後期期末考査	1 1 1 1 1 1 1 1	・生命をめぐる倫理的課題 代理出産や臓器移植、ゲノム編集など生命をめぐる問題について考察する。 ・環境問題 ・環境問題解決に向けた取組みと環境思想家 ・科学技術の発達 ・プライバシーの権利、情報リテラシー人工知能 ・ダイバーシティ、インクルージョン達成 ・グローバル化における文化や宗教摩擦 ・世界の平和を実現するために ・世界の平和を実現するための方法		
	70			

7 課題・提出物等

計 時間 (50 分授業)

- ・ 授業内や家庭学習での課題の作業やワークプリント、ほかにもノートなどの提出があります。
- ・ 作業や単元の終わりに振り返りシートを記入し提出することがあります。
- ・ 長期休業中の課題を別途指示することがあります。

8 担当者からの一言

「青年期」は自分自身の生き方・在り方について悩み、考える時期です。たくさんの先人の生き方から自らの生き方のヒントを学びましょう。この科目は、自らの人格の完成をめざして意欲を高め、たくさんの人とともに生きる、良識あるひとりの人間として必要な能力や態度を身につける学習をします。自己形成の課題と人間としての在り方・生き方について考えていきましょう。